



「自分への挑戦」が未来をつくる

鹿本中通信「礎」文責 エ

いしずえ
礎

入学して4ヶ月、中学校の生活にも慣れてきました。体育大会ではリーダーとして活動する先輩方の姿を見ながら懸命に頑張りました。菊池少年自然の家で実施した集団宿泊教室では、活動を通して集団活動の大切さについて学びました。また授業でも小学校とは違った雰囲気を感じながら学習に向かい、初めての定期テスト(中間テスト)を経験しました。あっという間に過ぎていく毎日の中で中学校生活の「礎」を少しずつ築いています。2学期は様々な活動をたくさんの方に発信していけるようにしたいと思います。

1 年主任 渡邊 陽一

1、2年生までの基礎の上に何が花開くのか？とても楽しみな1学期でした。いろんな活動で人前に出る人が増えました。普段から思いやりあふれる言動や表情の人が増えました。精一杯支えて伸ばしたいと思えるとてもステキな学年です。

3年主任 田崎 明美

4月、新たな希望を胸に始まった学校生活の中で、生徒たちは一つ一つの活動に真剣に向き合い、多くの経験を積み重ねてきました。入学式では、新入生が期待と緊張の中で新たな一步を踏み出し、在校生も先輩として新しい仲間を迎えました。体育大会では、勝敗だけではなく、仲間と励まし合い、最後まで力を尽くす姿が随所に見られました。生徒総会では、自分たちの学校をより良くするために意見を交わし、委員会活動において、一人一人が学校生活を支える役割を自覚し、責任を果たそうと努力しました。これらの活動は、単なる行事ではありません。どれも、自分の殻を破り、一步踏み出す「自分への挑戦」でした。人前で発表する勇気、苦手なことにも取り組む勇気、仲間のために行動する勇気、そして最後までやり抜く勇気。勇気ある挑戦の形は一人一人違っていても、その一步が確かな成長へとつながっています。挑戦は、いつもすぐに結果が出るとは限りません。しかし、大切なのは、結果だけではなく、自分で決めたことを信じて歩み続けることです。信じて続けることが力となり、その積み重ねが未来の自分をつくります。一步一步は小さくても、その歩みを止めなければ、必ず昨日の自分を超越することができます。保護者・地域の皆さまには、一学期間、本校の教育活動への温かいご理解とご支援を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

2 年主任 佐々木勇太

とにかく素直です。伝えたことに対して一生懸命に返そうとする姿にこちらもち力をもらっていました。自分の思いを表現する力がとてもついたと思います。人前で思いを伝えること、自分をさらけ出すこと、この部分については大きな成長だと思います。また、時間を守ることや学習規律など、土台となる部分は確実に強くなっていると感じます。たくましさとともに、小学生のような無邪気さを忘れていないところも素敵です。